

令和5年度  
全校研究のまとめ

- 1 令和5年度の取り組みについて
- 2 各研究グループの報告
- 3 成果と課題
- 4 来年度に向けて…

# 1 令和5年度の取り組みについて

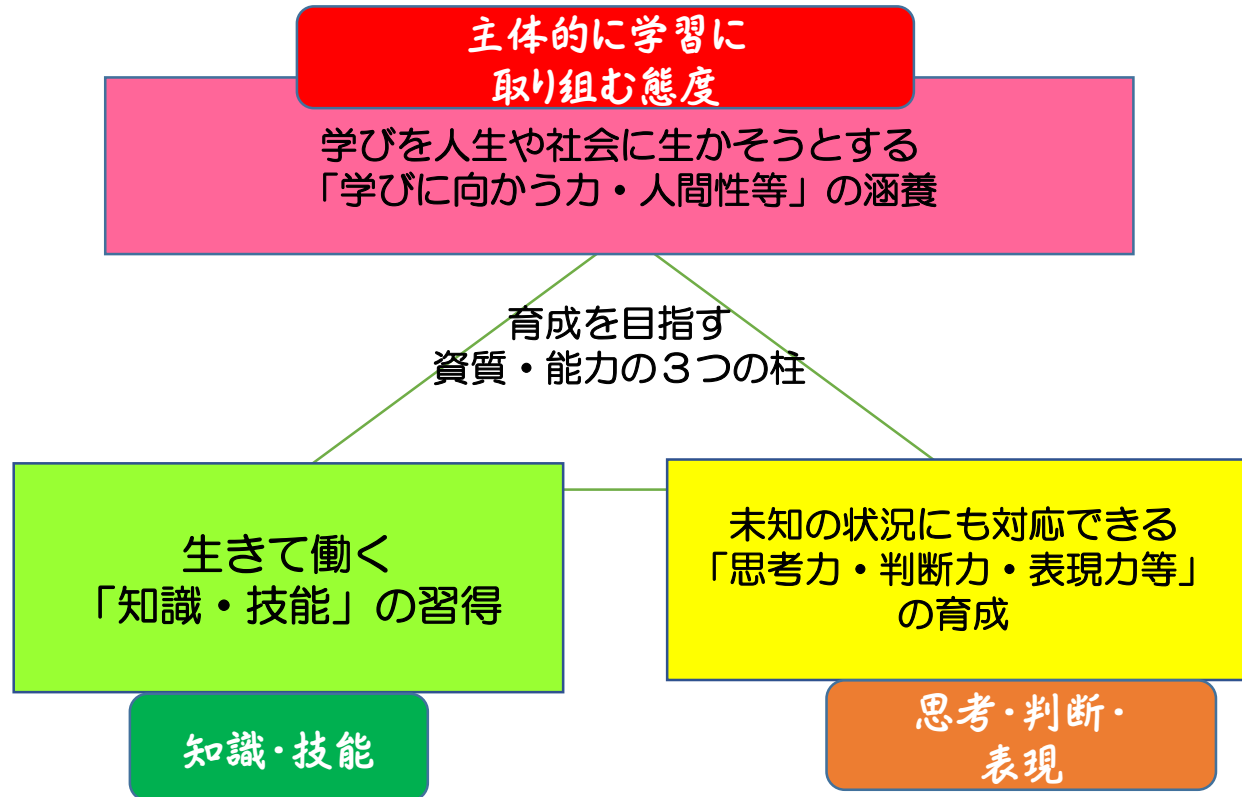
一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成  
(2年次)

～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をとおして～

# I 令和5年度の取り組みについて（V研究実践）

(1) 第1回全校研究会 5月11日（木）

(2) 学習指導要領の理解を深める



高教研講演会 8/2（水）

学習指導要領を  
踏まえた授業づくり

東北福祉大学  
教授 大西孝志氏

## <高教研講演会参加者の感想より>

- ・ 「教科指導（基礎・基本の定着）」 「年齢相応の生活経験・常識」 「経験に言葉をのせる」 ことが大事だと再確認した。
- ・ 各教科等を合わせた指導のためにまずは、各教科の目標をきちんと理解し、評価できるようにしたいと思った。
- ・ 「適切な『指導』と必要な『支援』」 という言葉が印象的だった。
- ・ 夏休み明けの授業は、経験だけでなく、言葉をのせ、心情に結び付け、考え判断するときの物差しを育てられるように丁寧に指導していきたい。

# I 令和5年度の取り組みについて（V研究実践）

## （3）学習指導案様式の検討 「各教科等を合わせた指導」版

0705 各教科等を合わせた指導（学部研究で使用） 版

○学部 第 年（ 組）  学習指導案

日 時：令和5年 年 月 日（ 時）（ ～ ）  
場 所： 年 組教室  
対象児童（生徒）： 年生（ 名）  
指導者： ○○(T1) ○○(T2)...

1 単元（題材）名  
「 \_\_\_\_\_ 」

2 単元で扱う各教科等の内容  
本単元では、○○を指導するにあたり、特別支援学校○学部学習指導要領○○科、○○科、○○科の、以下の内容を受けて設定している。

○学部	○○科	○段階	内容

3 単元（題材）の目標

(1) ……できる。 (知識及び技能)  
(2) ……できる。 (思考力、判断力、表現力等)  
(3) ……しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
扱う教科の評価規準 (○○科) ……	扱う教科の評価規準 (○○科) ……	扱う教科の評価規準 (○○科) ……

0705 各教科等を合わせた指導（学部研究で使用） 版

5 単元の指導計画

時数	小単元	学習活動	扱う教科の内容

6 本時の指導（○時間目/全○時間）

(1) 目標  
ア ……

(2) 児童（生徒）の様子と個別の目標（別紙も可）

	児童（生徒）の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A				
B				
C				

0705 各教科等を合わせた指導（学部研究で使用） 版

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点（○評価）	準備物等
導入（一分）			
展開（一分）			
終末（一分）			

(4) 配置図

(5) 評価の観点  
<児童生徒> 中個別の目標を基に評価する。  
<教師> 中本時の目標を達成するための支援は適切であったか。  
ア 本時の目標が達成できるような学習活動が十分展開できたか。  
イ 育成したい資質・能力は身に付けることができたか。

# I 令和5年度の取り組みについて（V研究実践）

（4）全校授業研究会 11月22日（水）

①単元名 作業学習「ワックス清掃に取り組もう

～太田小学校ワックス清掃に向けて～

（関連する教科：職業、国語、社会、道徳）

②対象 本校高等部環境整備班 11名

③授業実施日 11月15日（水） 1校時～4校時



作業工程	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1 設置の写真撮影 (1枚撮影を行う)	タブレットで撮影	タブレットで撮影	
2 通り掃の準備(掃子へ)	前の教室のゴミ箱に 掃子 掃き出し 物の移動	物の移動	物の移動
3 拭き取り	ワイフ スポンジ清掃	ポリッシュ清掃 ポリッシュ A コード持ち	拭き取り雑巾 拭き取り
4 ボリッシャー	ポリッシャー清掃 雑巾 スポンジ清掃	ポリッシャー A コード持ち	ドラム機コード 雑巾 スポンジの準備
5 スポンジとすり	スポンジの準備 ワイフ	ポリッシャー清掃 ワイフ	スポンジ スポンジ
6 スタイジー	スタイジー 掃りおめで掃く		スタイジー スポンジの準備
7 拭き取り	ワイフ清掃 掃りおめで掃く	ワイフ清掃 スポンジ清掃	スポンジ スポンジ
8 雑巾	ワイフ清掃 雑巾	ワイフ清掃 雑巾	ワイフ清掃 雑巾
9 ごみ取り	ワイフ清掃 ごみ取り	ワイフ清掃 ごみ取り	ワイフ清掃 ごみ取り
10 ワックス	ワックス(スポンジ)を 雑巾で拭き取り 雑巾	ワックス(スポンジ)を 雑巾で拭き取り 雑巾	ワックス(スポンジ)を 雑巾で拭き取り 雑巾
11 雑巾	ワイフ清掃 雑巾	ワイフ清掃 雑巾	ワイフ清掃 雑巾
12 物の移動(教室へ)	物の移動	物の移動	物の移動

※準備物は、工程順にAグループにAグループに準備するようにする





⑤グループ R5 全校研究会 グループ研  
 (高等部 高橋由紀先生 作業学習 環境整備班 研究授業)

イ 授業者が聞きたいこと①  
 「時間が確保できない中での  
 朝礼終礼の持ち方」

ア この学習(作業学習)において目指す資・能力(単元の目標/本時の目標)を育成するための「短」

学習内容(量)の活動の流れ 場の設定 指導形態 教材教具 教師の対応の工夫

良かった点

見通しをもて落ちこみ清掃する姿に繋がった

主体的に活動する(非公式的)

「手たて」

目標の「う」が体现されていた

社会生活を交えると時間を意識できる  
 支援があってもよいのでは

発展

生徒が評価表を紹介する

作業環境(安全・衛生面)

「学元内の時間  
 の使いかた」

記録の残し  
 の工夫

イ 授業者が聞きたいこと②  
 「工程の中での待ち時間の  
 過ごし方」

プラスの準備

有効な時間の使い方  
 XEなど



## 2 各研究グループの報告

### 授業実践

- ア 授業実践の対象を「**各教科等を合わせた指導**」の中から
- イ 年間指導計画→授業実践する単元を選ぶ  
三つの柱に沿った目標設定、評価規準の検討
- ウ 各学部（分教室）授業研究会  
P→D→C→A

# <本校小学部>

## 1 研究の方法

単元づくりシートと評価まとめシートを活用しながら、単元づくり及び評価等を行った。

グループ	研究対象学年等	各教科等を合わせた指導等
1	1、2年通常学級	遊びの指導
2	4学年(通常学級、 重複障がい学級A、B1…生単) (重複障がい学級B2、訪問学級…自活)	生活単元学習 + 自立活動 (兼、第61回東北特別支援教育研究大会岩手大会提案単元検討)
3	5学年 (通常学級と重複障がい学級A)	生活単元学習
4	6学年 (通常学級と重複障がい学級A、B1)	生活単元学習
5	重複障がい学級(1～5学年)	自立活動 (合同自活)

## 2 研究実践

< 1、2年通常学級「遊びの指導」 >

1 単元名	にこにこランドであそぼう かみあそびをしようⅠⅡ
2 扱った教科	生活科、国語科、算数科

< 4学年「生活単元学習(通常学級、重複障がい学級A、B1)」  
「自立活動(重複障がい学級B2、訪問学級)」 >

1 単元名	ふるさと体験館に行こう
2 扱った教科	国語科、生活科、自立活動(重複障害学級B2と訪問学級)

< 5学年通常学級、重複障がい学級A「生活単元学習」 >

1 単元名	宿泊学習に行こう
2 扱った教科	生活科、国語科、算数科、図画工作科、音楽科

< 6 学年通常学級、重複障がい学級A、B1「生活単元学習」 >

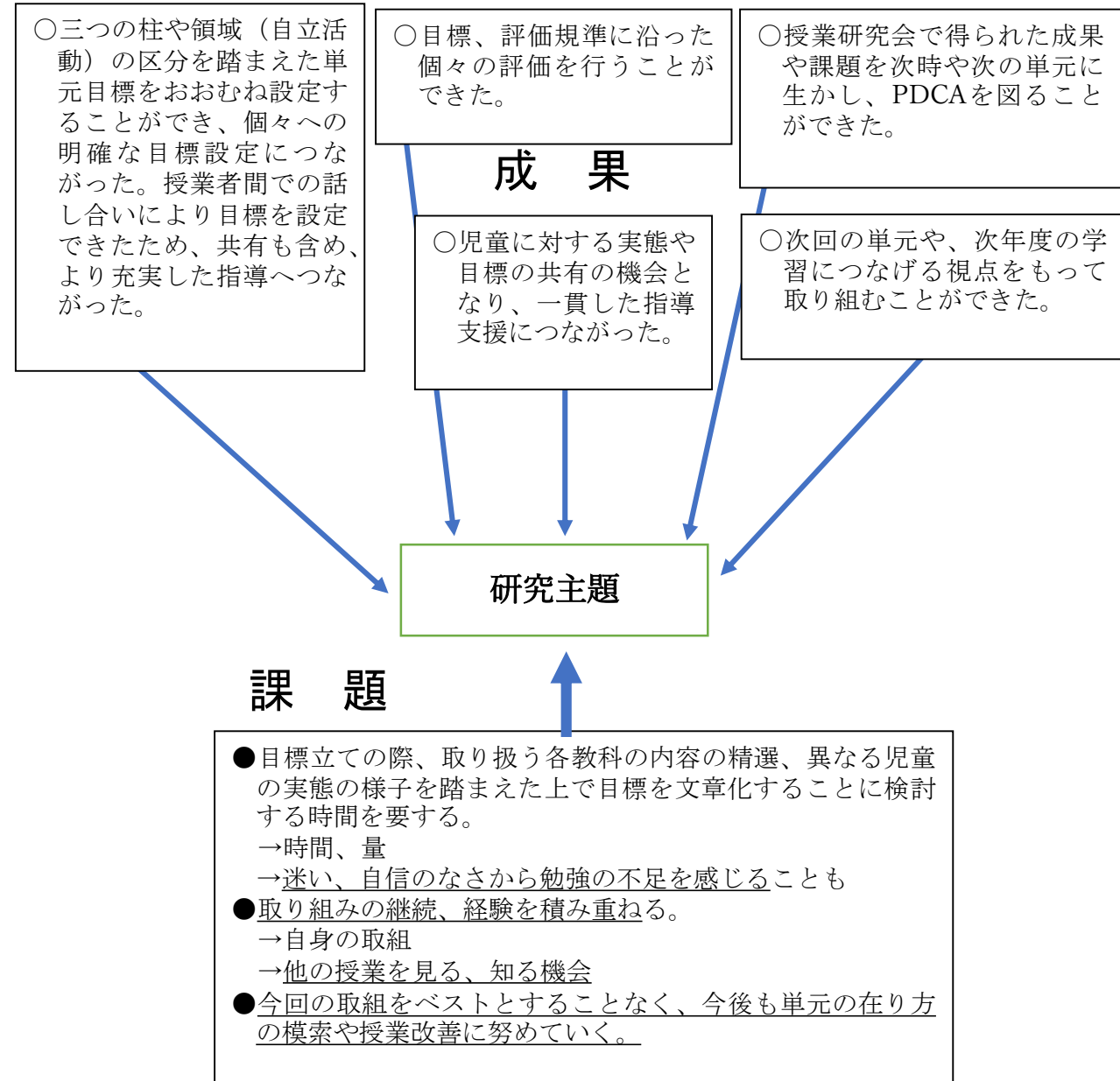
1 単元名	秋祭りを開こう！
2 扱った教科	生活科、国語科、算数科、図画工作科

< 重複障がい学級「合同自立活動」 >

1 単元名	ボウリングをしよう
2 自立活動区分	人間関係の形成、身体の動き、 コミュニケーション



### 3 学部研究のまとめ 成果と課題



# <本校中学部>

## 1 研究の方法

『授業実践の計画（単元づくり）、授業実践（研究授業）、振り返り（授業検討会）、授業改善』⇒『PDCAサイクル』を進める。

各教科等を合わせた指導	グループの分け方	どのような方法で進めたか
作業学習	カレンダー班 工芸班 リサイクル班	0) 学部研究の授業決定 研究グループの決定 1) 授業実践の計画 (指導案の検討) 2) 授業を見合う会の実施 3) 研究授業・授業研究会 4) 学部研究のまとめ

## 2 研究実践

単元名『こたままつりにむけて製品を作ろう』で研究授業を行った。

作業班	カレンダー班
単元で扱う各教科等の内容	職業・家庭科、 <b>社会科</b> 、国語科、数学科、美術科

作業班	工芸班
単元で扱う各教科等の内容	職業・家庭科、国語科（ <b>小 2段階含む</b> ）、数学科（ <b>小 3段階含む</b> ）、 <b>図画工作</b> （小 3段階）、美術科

作業班	リサイクル班
単元で扱う各教科等の内容	職業・家庭科、国語科（ <b>小 2段階含む</b> ）、算数科、数学科、美術科

# 自立活動として作業に取り組む生徒も含めて指導案作成(リサイクル班)

6 本時の指導 (21 時間目/全 61 時間)

(1) 目標

ア 製品づくりの順番が分かり、手順通りに作業を進めることができる。

イ 自分の決めた目標に近づけるように時間いっぱい作業に取り組み、自分の取り組みを振り返り、発表することができる。

ウ 仲間と協力して作業することで製品が完成し、作業効率を良くしようと考え、工夫しようとしている。

(2) 個別の目標

ア 合わせた指導として取り組む生徒の様子と個別の目標 (別紙も可)

	生徒の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A	どの作業にも進んで取り組むが、手元がよく見えなかったり、指先をうまく使えなかったりする。作業の終わりが分かりにくい。声がけや確認等の支援が必要。	手元に注目しながら油取りバックの中身を入れる。中身を全部入れたら「終わりました」の報告をする。	油取りバックの中身をコップに入れる補助具を使用する。	手元をよく見て作業をすることができていたか。作業が終わったら報告ができたか。
B	難聴があり言葉による指示理解は難しいが、イラストや写真カード、簡単なジェスチャーを理解して活動に取り組むことができる。作業の手順を見せると真似して活動しようとする。	・提示された枚数の紙をシュレッターにかけることができる。 ・休憩をしながら長い時間作業に取り組むことができる。	・目標枚数をあらかじめ提示し、見通しをもって活動できるようにする。 ・活動時間や作業の回数を提示し、見通しがもてるようにする。	・目標枚数をやり終えることができたか。 ・残りの時間や回数を確認しながら作業に取り組むことができたか。
C	細かい作業にも集中して取り組むことができる。作業の流れを理解して一人で進めることができるが、慣れてくると指示されていないことをしてしまうことがある。	油取りバックの袋詰めが1個終わるたびに報告する。次の指示を聞いてから作業を進める。	油取りバックの袋や中身を1個分ずつ用意し、作業終了の報告と製品の確認が終わってから次の材料を教師から受け取る。	作業の終わりや次の作業に移る時に報告することができたか。作業の指示があるまで待つことができたか。
D	ミキサー掛けの作業に積極的に取り組んでいる。ミキサーの手順を理解して、一人で進めることができる。準備・片付けを進んで行おうとする。	・目標の回数を決めて目標達成できるようにする。 ・指示を聞いてから準備・片付けを行うことができる。	目標回数を提示し、目標達成までの見通しをもたせる。振り返りには出来高表を使用する。	目標回数を自分で設定し、目標達成できたか。指示を聞いて準備・片付けを行うことができたか。
E	水切りでは、ローラーに力を入れて、紙の表面が平らになるように意識して取り組んでいる。気持ちの浮き沈みがあり、気持ちの切り替え	・目標枚数を決めて、時間内に目標達成できるようにする。 ・時間いっぱい作業することができる。	目標枚数と活動時間を提示し、目標達成までの見通しをもたせる。振り返りに出来高表を使用する。気持ちの切り替えが	目標枚数を自分で設定し、目標達成できたか。時間いっぱい作業することができたか。

	が難しいときがある。		できるよう、教師が声掛けをしたり、タイマーを使用する。	
F	紙すき作業ではすいた紙の表面がなめらかになるように自ら意識して取り組むことができる。すいた紙の表面にごみを見付けると、「ごみあった」と言って教師に伝え、ピンセットで取ることができる。	・目標枚数を決めて、時間内に目標達成できるようにする。 ・紙すきは、なるべく同じ厚さで、表面が滑らかになるように紙をすく。	目標枚数と活動時間を提示し、目標達成までの見通しをもたせる。振り返りに出来高表を使用する。作業に取り組みやすいように道具の配置の工夫や姿勢を支援する。	目標枚数を自分で設定し、目標達成できたか。自分の満足する紙をすくことができたか。
G	ミキサー掛けの作業に積極的に取り組み、準備・片付けや機械操作を自分から行おうとする。	ミキサー掛けの準備から片付けまでの一連の作業を自分で進めようとする。	必要な行動が自分から起きないときは使用する物や場所を指し示したり、ヒントとなる言葉を話す。	一連の作業を自分で進めることができたか。

イ 自立活動として取り組む生徒の様子と個別の目標 (別紙も可)

	生徒の実態	本時の個別の目標	手立て
A	・難聴のため、環境把握や言葉による指示理解が難しい。(心2) (環1) ・手指の力が弱く、一人で活動できる作業が限定される。(環1)(身3・5) ・手元に注目せず、感覚的に手を伸ばして物の操作をする。(環5) ・じっとして、一つのことに集中することが難しい。(心1) ・周囲に人がいると、気持ちがそちらに向き、自分の作業に集中、注視することが難しい。( )	・シュレッダーのレバーを握り、正しい方向に連続して回転させながら紙を細かく刻むことができる。 ・友達に視線を向け、シュレッダーした紙を手渡すことができる。	・握りやすいよう、レバーの太さや長さを調整する。 ・レバーの正しい回転方向に手を添えながら導く。 ・安定した気持ちで取り組むために、衝立を利用して作業空間を設定する。 ・様々な動作(紙を切る、持つ、運ぶ等)を組合せ、集中力が持続するようにする。 ・「お願いします」「ありがとう」の手話を作業班グループ内で共有する。 ・次の工程メンバーの写真カードを提示し、誰に手渡すのかを確認してから移動する。



### 3 学部研究のまとめ

#### 成果

- ・関係する教科等の目標について、じっくりと学習指導要領を読むことができた。
- ・言葉の捉え方として共通の意味合いをもって教科の評価規準を設定することができた。
- ・「授業を見合う会」で他の作業班から意見をいただき、具体的な手立てや支援具等について検討し、改善することができた。
- ・「授業を見合う会」や「研究授業」を実施することで、他の作業班を見る機会となり、情報共有の場になった。

#### 課題

- ・研究の進め方について、「授業を見合う会」と「研究授業」の設定期間が短かったため、他の作業班からもらった意見を、授業場面ですぐに生かすことができなかった。
- ・「全体で説明する→各作業班で検討する」という流れで進めたが、授業づくりの検討や改善を行うためには、もっとじっくり時間が欲しかったという意見があった。

# <本校高等部>

## 1 研究の方法

作業進捗入力シートを活用した、グループ（班）ごとの必要な支援方法と個々の目標の検討を行った。

各教科等を合わせた指導	グループの分け方	どのような方法で進めたか
作業学習	各作業班5グループ 【農作業班、環境整備班、紙工班、手芸班、木工班】	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習指導要領の学習会</li><li>・作業進捗入力シートの活用による、個々の目標と必要な支援方法の検討</li><li>・環境整備班の単元構想を学部全体で検討</li><li>・グループ研究とアンケートから得られた成果や課題を共有した学部研究のまとめ</li></ul>

## 2 研究実践

<p>(1) ・「職業科」の学習会 ・東北特研提案授業による学習指導案や授業の実際から学習指導要領の理解を深める学習会</p>	<p>(2) 作業進捗入力シートの活用</p> <p>【研究の視点】</p>	<p>(3) 環境整備班・単元構想の学部検討</p> <p>【ワックス清掃に取り組もう～太田小学校ワックス清掃に向けて～】</p>	<p>(4) 学部アンケートの結果とまとめ</p>
<p>①学習指導要領解説より「職業科」の内容からA職業生活の「勤労の意義」と「職業」についての項目確認を行った。</p> <p>②卒業後を見据えた一貫した指導の在り方のテーマのもと、「特別活動」の授業提案をしていただき、学部で学習指導案と学習指導要領の理解を深めた。</p>	<p>①どのような指導・支援をすれば生徒が自分の目標に気付くことができるか。</p> <p>②生徒自身が立案した目標の達成に向けて、どう支援するか。</p> <p>③生徒自身が自らを適切に振り返り、次の目標立案に生かすことができるためにどのように支援するか。</p>	<p>環境整備班の学習指導案原案を元に、学部全体で検討し、11月の全校授業研究会に向けて生徒個々の目標と課題点の確認を図った。</p>	<p>学部研究会で各グループの作業進捗入力シートの取り組みを全体で振り返り、学部アンケートを実施した。</p>

### 3 学部研究のまとめ

#### (1) 成果

- 生徒の変容と生徒自身の自分の成長への気づきを支える授業づくりと授業改善として、班ごとに作業進捗入力シートを活用して情報共有したり、手立ての相談、生徒の目標立案への促し方等、職員間で時間をかけて話すことができた。
- 学習指導要領の理解を図りながら、生徒の主體的な気づきや行動の変容を見取ることができるように教材教具や環境の設定、声掛け等の工夫ができた。



### 3 学部研究のまとめ

#### (2) 課題

##### ①作業進捗入力シートの改善

- ・生徒の変容を確認するためにも、観察や手立ての工夫、それに伴う変化の様子を見取る期間を1か月ではなく2か月程度とってみても良かった。
- ・目標に対しての手立てについて、という記述で作業進捗入力シートが用意されていたため、生徒の変容について書くことが狭められていたように感じたので自由記述でも良かった。

##### ②進捗状況の確認

- ・定期的な検討会の実施による、授業改善の視点が学部内で共有されていれば、方向性を見失わず成果が積みあがるのではないか。
- ・各班がどのように進められているか進捗を確認し合う時間が無かった。

# <遠野分教室小学部>

## 1 研究の方法

遠野分教室小学部全体で研究に取り組んだ。

- (1) 単元シートの活用した単元づくりの検討
- (2) 研究授業の実施
- (3) 授業研究会の実践
- (4) 学部研究のまとめ

## 2 研究実践

11月に実践する単元を年間指導計画の中から取り上げた。これまでの児童の様子や実態を共有した上で、児童に身に付けさせたい資質・能力についての考えを深め、三つの柱を踏まえた目標設定、評価規準を検討した。児童の実態に合った段階と関連する教科について、学習指導要領を通して「各教科等を合わせた指導」の理解を深めながら、単元づくりシートと学習指導案の作成を行った。授業後は、実践授業について振り返り、意見交換を行った。

1 単元名	生活単元学習「秋の収穫パーティーをしよう」
2 単元で扱う教科	生活科、国語科、算数科

### 3 学部研究のまとめ

#### (1) 成果

- 生活単元学習の学習指導案を作成して授業づくりを行ったことで、関連する各教科の裏付けやねらいを明確にすることができた。また、「各教科を合わせた指導」には、目標や評価が曖昧であったり、各教科との関連が不明瞭だったりの課題があったが、3つの能力に沿ってその単元を捉え直すと、その課題が解決することが分かった。
- 研究グループを1つに絞ることで1つの学級の授業を深めることができた。担任外の教員と意見を交換しながら各教科の内容の中で1番大事なことは何かを探したり、相談したりしながら進めることができて良かった。

#### (2) 課題

- 学習指導要領の理解を更に深めていく必要がある。また、教員間で指導内容を検討して、共通理解を図りながら授業づくりを進めていきたい。
- 全国の学校でも学習指導要領を基に学習指導案が検討され、授業が展開されている。生活単元学習をはじめとして、他校のいろいろな取組を学んでいきたい。より簡潔な教科・教科を合わせた指導の指導案様式や作成する際の手順も知りたい。各教科の目標を意識しつつ生活単元学習の授業づくりを深めていきたいし、児童によっては生活等の合わせない指導についても可能性を探っていきたい。

#### (3) その他

- 生活単元学習の内容を毎年変化させていく必要があるため、生活単元学習でも国語や算数、音楽のような星本があると良いという話題が出た。生活単元学習は、担当する教員によって異なってくるので、学年ごとに決められた系統性があると内容に偏りもなくなるのではないかと感じた。

# <遠野分教室中学部>

## 1 研究の方法

- (1) 単元シートの作成、検討
- (2) 研究授業の実施
- (3) 授業研究会の実践
- (4) 学部研究のまとめ

## 2 研究実践

7月の研究会で分教室で一つのテーマに取り組むことと、授業研の日程を11月とすることを決定した。8月の研究会で、生活単元学習の単元「校外学習へ行こう」を授業研の対象として設定した。その後、指導と評価の計画、本時の指導計画について検討を行った。

1 単元名	生活単元学習「校外学習へ行こう」
2 単元で扱う各教科	国語科、算数科、生活科



### 3 学部研究のまとめ

#### (1) 成果

- ・ 学習指導要領の理解が深まった。各教科等を合わせた学習については、児童生徒のねらいに沿ってどのように内容を合わせていくか、という点で難しい部分もある。しかし、三つの柱に沿って見直すことで教科との関連性も分かりやすくなり、目指す能力・資質の育成をねらいやすくなる。各教科に関する見方・考え方を生徒に意識させることができた等、合わせた指導の良さも見えてきた。

#### (2) 課題

- ・ 学習指導要領を理解しきることは難しいので、引き続き研修が必要。特に、児童生徒の実態に照らして適切に組み合わせるため、各教科の各段階における目標や内容を把握しておくことが必要。

# <北上みなみ分教室小学部>

## 1 研究の方法

北上みなみ分教室小学部全体で研究に取り組んだ。

- (1) 単元シートの活用
- (2) 研究授業の実施
- (3) 授業研究会の実践
- (4) 学部研究のまとめ

## 2 研究実践

学習指導要領から「各教科等を合わせた指導」の理解を深めながら、単元づくりシート、学習指導案の作成を行った。三つの柱に沿った目標設定、評価規準の検討を行い、目標達成に向けた手立てや教材教具、支援方法など授業づくりについて話し合いを重ねた。

### 1 単元名

生活単元学習「カレンダーを作ろう」

### 2 単元で扱う各教科

生活科、国語科、算数科、図工科

### 3 学部研究のまとめ

#### (1) 成果

- ・単元づくりシート作成の際に、学習指導要領を見ながら、単元で扱う各教科の内容、評価規準について検討し、職員間の共通理解を図って授業を行ったことで、児童にどんな力を身に付けさせたいか、どのように指導、支援したらいいのか、意識して授業を行うことができたり、個別の評価を行うときの参考になったりしたので良かった。

#### (2) 課題

- ・一人ひとりが力を発揮し主体的に活動する児童の姿につながる指導、三つの柱に沿った授業づくりができたが、目的の明確化、授業の流れ、場の工夫など授業改善することで、より主体的に活動する姿が見られると考えられるので、今後も改善を進めていきたい。
- ・児童の資質能力の伸長をより効果的に機能させるために、教科別の指導と各教科等を合わせた指導とのつながりを計画的に充実させていくことが必要である。
- ・今後の研究では、どういう手立てで児童がそのように変わったのか、どのような手立てが有効だったのか等、手立てや支援方法を検証する研究、児童の変容に焦点を当てた研究を進めていきたい。

# <北上みなみ分教室中学部>

## 1 研究の方法

(1) 学習指導要領の学習会

(2) 単元づくりシートの作成、検討

⇒ 単元設定

「三つの柱」に沿った目標設定、評価規準の検討

「三つの柱」に沿った指導の手立ての整理と検討

(3) 授業実践 振り返りと評価

## 2 研究実践

作業学習 単元名「南中販売会を成功させよう」

※「学習の振り返り＝学んだこと（インプット）を生かす（アウトプット）」

学習活動」の検討、計画、実践に焦点を当てて取り組んだ。

### 3 学部研究のまとめ

#### (1) 成果

- ・ 学習指導要領の理解が進み、授業に生かすことができた。
- ・ 終礼時の『振り返り』をホワイトボードに書き残し、次時の課題設定や振り返りに活用  
⇒ 振り返る力が付いていく。作業活動のつながりを生徒自身も実感できた。
- ・ 作業内容、時間、補助具を実態に合わせて柔軟に変更  
⇒ より生徒の実態に合った取り組みになった。
- ・ 授業検討等をとおして、生徒に身に付けさせたい資質・能力を職員間で共有  
⇒ 指導や支援の手立て、授業改善につながった。
- ・ 併設校（北上南中学校）職員も研究授業、研究協議に参加  
⇒ 生徒理解、指導についての相互理解が深まった。今後も共により良い授業を目指す関係を築いていきたい。

### 3 学部研究のまとめ

#### (2) 課題・今後に向けて

- ・学習指導要領の読み込みは、一人一人がまだまだ必要。
- ・作業学習で行っている思考の流れを、他教科でも取り組んでいくべき。教科に合わせた方法で、学校生活で常に振り返りがある思考を育てていきたい。
- ・教材（今回は「糸かけチェック表」）の活用の仕方を丁寧に生徒に教えていく必要がある。
- ・昨年度の学部研の成果（学習過程を振り返られるように生徒に意図的・計画的にフィードバックする、板書の記載方法を揃える等）を継続して授業に活かしていくこと。
- ・分教室の特性上、日々生徒の様子や授業について全職員で話題にし、改善を図ってきた。生徒も少人数で毎年実態も大きく変わるため、作業学習においても、内容や手順を柔軟に変化させながら、生徒の学ぶ意欲に結び付けられるようにしていく。



# < 寄 宿 舎 >

## 1 寄 宿 舎 研 究 に つ い て

「やってみたい、楽しい、できる」から主体的な姿を育む

## 2 研 究 の 方 法

研究内容	具体的内容	協議方法
PDCAサイクルの活用	・ 担当する寄宿舍生を1名抽出し取り組む。	グループ
主体的姿を育む支援方法を探る	・ 実態把握、目標設定、PDCAサイクルの活用と確認。	グループ 全体
主体的姿へとつなげる支援の継承	・ シートの改善。 ・ グループ研の効率的な持ち方を探る。	グループ 全体

## 3 研 究 実 践

(1) 1人1事例による、実態把握・目標設定・PDCAの実施

(2) 棟協議、シートや話し合いの持ち方の改善

(3) 研修会

## 4 寄宿舍研究のまとめ

### (1) 成果

- ア 支援の統一化や明確な評価につながった。
- イ 寄宿舍生の長所やできることに着目し、実態に則した具体的な目標設定ができた。
- ウ 職員の迷いを補い、寄宿舍生の実態を深掘りできた。
- エ 話し合いの改善を図ることができた。
- オ シートがあることで、口頭よりも検討しやすい。

### (2) 課題

- ア 『6区分』や『3観点』に当てはめる際の迷いがある。
- イ P D C Aシートへ記入する負担がある。

# 3 成果と課題

一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成  
(2年次)

～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をとおして～

### 3 成果と課題

#### <成果>

(1) 「各教科等を合わせた指導」と、関連する教科を確認し合ったことで、育成を目指す資質・能力を教科とのつながりから具体的に意識し授業づくりに生かすことができた。

⇒ **学習指導要領の理解**

**各教科等を合わせた指導と各教科等のつながりの理解**

## <成果>

(2) 各研究グループで研究授業を実施することで、児童生徒の実態をより深く理解したり、よりよい支援・指導方法について検討したりし、次の学習につなげることができた。

⇒PDCAサイクルを意識した取組

## <成果>

(3) 「各教科等を合わせた指導」の指導形態では、季節行事や学校行事と結びつけた単元設定が行われることが多いため、児童生徒が見通しをもって取り組みやすかった。

⇒児童生徒の主体的に学ぶ姿

学習場面以外でも学んだことを話題にしたりする姿



## < 課題 >

- (1) 学習指導要領の内容を引き続き丁寧に確認し、理解しながら実践に生かしていくことが必要。
- (2) 知的障がいのある児童生徒の特性の理解を深め、各教科等を合わせた指導の指導形態を生かしながら確かな力を身に付けることのできる取組をさらに進めていく必要がある。

# <まとめ>

学習指導要領に提示していることをそのまま実践するのではなく、**児童生徒の実態に合わせて、学びやすい方法に変え、授業づくりをしていく**ことが、主体的な姿につながった。学びを深め、生活に生きる力につなげるため、さらに**どんな力を身に付けるべきか考え、実践**していく。



## 4 来年度に向けて

- (1) 児童生徒に身に付けさせたい力を明らかにした授業づくりの継承  
(学習指導要領のさらなる理解)
- (2) 児童生徒が学んだり身に付けたりしたことが、他の学習や生活場面につながる授業実践  
(確かな生きる力へ)